

令和2年度 西砂学習館運営協議会（令和2年8月）会議録概要

日 時：令和2年8月20日（木）午後6時～9時00分

出 席：大橋 加藤 広瀬 進藤 長谷川 岩元 森 増田 小笠原 小林

事務局：石川 俣本

欠 席：なし

1. 開会のあいさつ

大橋：コロナウイルス感染症の人数が339名、重傷者は36名で増えてきている。猛暑の中第3回のサマーイベントが無事に終了。早朝からお手伝い頂き感謝。午後の学習では小笠原委員・石川係長に特に協力戴いた。まとめの写真ではコロナ対策をクローズアップした。

今日は前回の宿題を検討していきたい。コロナの影響で活動の数が減っている。原点に立ち返り、地域をしっかりと見つめ直し問い直す時間に使えればと考えている。西砂町・一番町をどんな地域にしたいのか、どうしてほしい等の願いや課題のアイデアを出し合い、共有出来ると学習館でもどんな講座を取り上げれば良いかの方向性が見えてくると思う。学社一体の流れにもなっているので、地域が学校を支えられるようになる為に地運協のメンバーと学校コーディネーター含めてざっくばらんに話し合える時間が持てたら良い。

石川：サマーイベントが無事に終了。ありがとうございました。地域活性化講座の意見を頂き、まとめたいと考えています。資料の「西砂・一番へようこそ」はまだたたき台ですので、皆さんからご意見を頂いて完成しましたら、西武立川駅の掲示板に掲示したいと考えている。

2. 令和2年度地域活性化講座について

(1) 「西砂サマーイベント～火曜日は学習館に行こう！」について

大橋：青少健から1万円の寄付を頂いた。ありがとうございました。

石川：子ども達の飲み物やおやつに2,913円使用し、来年度への繰り越しは7,087円となった。ボランティアは特に勉強サポーターが3名も来て頂き充実した。コロナ禍でも沢山の参加者が来てくれた。例年は午後には子ども達が飽きてしまっていたが小笠原委員に協力して頂き工作のイベントを行ったところ、とても楽しみながら参加してくれて充実した一日になったと思う。市報「たち」にも掲載し西砂学習館の活動を沢山の人の目に届きたいと思っている。

大橋：夏ボラの方3名含めて6名がボランティアに参加してくれた事がとても良かったと感じた。懸念している事は午後の学習・イベントで準備を含めた西砂児童館の負担が過大になってしまうので、年明けにはアイデアを練り調整が出来たらと思う。

小笠原：学習面に繋がる内容を考えてみた。児童館が参加させて頂きありがたいと感じた。

来年はしっかり学習館と組んだ形で新しいメンバーも参加させたい。手や体を動かす夏の体験を児童館や学校以外の場所で子ども達が過ごせることが大事と思う。

広瀬：来年は出来るだけ様々な団体に協力を頂けたら良いと思う。きっかけに午後の学習、イベントは適している。行うには学校らしくないものが良いと思う。

大橋：午前の昼食作りにも色々な団体の参加や、1つの活動を多方面から協力して頂き地域に住んで良かったと感じてもらい、イキイキと輝ける街づくりにしていけたら良いと思う。サマーイベントが1つの大きな流れになればと思う。

(2) 「西砂川での災害を考える」〈第5弾〉の日程変更について

・12/6(日)は防災課は2箇所での防災訓練があり、人を出すことが出来ない。

石川：12月6日の日曜日に実施を予定していたが、防災訓練と重なりこの日は駄目になってしまった。1月で防災課職員が参加出来る日の中で委員の参加が1番多い日に日程を再調整したい。

(3) 令和2年度地域活性化講座に関する宿題について

1. 「地域を学ぼう西砂の野仏を訪ねて」の中の参加対象者について

石川：前回の会議で地元枠、PTA枠やまちねっと枠を作った方が良いと話が出た。豊泉先生が打ち合わせの際に色々な人に来てもらいたいと話されていたので、全部西砂枠とはいかない事が分かり、定員と西砂枠について今回決めたいと思った。

大橋：定員と西砂枠の決め方について、受付時にどの枠か確認は可能か。

石川：可能。

加藤：以前に豊泉先生の講座を行ったが、西砂からの参加者はなかった。地元を歩くと普段気付かない再発見がある。地元の人達に興味を持ってもらえたらすごい事と思う。

大橋：個々に枠を設けると受付が大変だと思う。地元の人たちに興味を持ってもらいたいとの趣旨を考えると西砂町、一番町枠と一般で分けることが良い。

岩元：PTAに依頼し松中小枠と西砂小枠と7中枠を設けたらいいのではないかな。

広瀬：枠を設けても簡単には集まらないと思う。

大橋：PTAに枠を依頼したら会長が枠振りに困ってしまうのではないかなと思う。

広瀬：PTAの役員会でチラシを配布し決めてもらうことは難しいか。

大橋：決めて貰う事と決めるために時間を割いてもらうことはお願い出来ないと思う。

森：申込開始日をずらして西砂地域のみ早くし、地域の人が見てもらえる冊子にだけ早く申込開始日を掲載出来れば優先的な調整がし易くなる。

石川：3校の方はチラシを配り西砂エリアに先行優先的に募集をかける。

岩元：子どもは参加人数に含めるか。

森：小学生以上を1名としてカウントしたら良いと思う。

石川：募集方法はそのようにする。

大橋：立川市民科の冊子を読んでいたら記録に残すことがとても大事なことで学んだ。ビデオに残すことは可能か。

石川：市民科講座で砂川の新田があり、講師の森さんを榎崎さんがビデオに撮ってくれて編集までしてくれて資料と一緒に残していこうとなった。

大橋：豊泉先生の話は一回一回がとても大切になってくるので地域の文化財は写真等何かに残しておくべきと思うし西砂学習館が中心となりデータで残す工夫をしてほしい。

広瀬：一つ一つがとても貴重なので写真に撮っておいた方が良いと思う。

岩元：講座の中身を知る事が出来るデータがあれば良いと思う。

石川：アームにあるレコーダーを講師が使い私がヘッドホンで聞きながら録音する。写真は別に撮れば良い。

加藤：西砂地区を歩くと沢山の新しい気付きがあった。西砂地区を写真で表すマップを作れば面白くなってくると思う。

石川：11月13日・20日・27日で森先生が講師で榎崎さんがビデオを撮る講座を砂川で行う予定。20日は西砂川を歩く予定なので編集済の資料を取得したら持ってくる。

2. 西砂夜間塾について

大橋：開催日は11月6日、食事はなしで定員は25名になる。

小笠原：西砂小と松中小の年間予定を確認した所、西砂小は11月7日の土曜日に土曜授業が予定されていることが分かった。翌日が学校とのリスクが出てしまい加味すべきかと思う。11月20日は2小学校とも今の所予定はない。

大橋：開催日は11月20日に変更。食事提供もないので開始時間を遅らせる事も出来る。

小笠原：児童館職員が子ども達の足や靴に着目していて親が靴をないがしろにする中で子ども達の発達に影響が出ている。シューフィッターの先生に依頼し夜間塾で開催できたらと思う。元々は整体師で身体全体と足の骨格を教える事も出来る。

大橋：その先生に依頼する。

増田：一番心配なことは子どもを持っている親が子どもを見ていない。夜間塾だけでなく伝えられる場が出来たら良いと思う。

広瀬：セルフカウンセリングも良い。メモをしながら対話形式で見直す講座になる。西砂で子どもとのコミュニケーション講座を開いているが、参加の状況はどうか。

石川：「子どもの心が開く魔法のことば」はすぐにいっぱいになる。飛鳥井先生は何年か続いている人気の講座で元気をくれるオーラを出している先生。

大橋：夜間塾は2回行えるので、11月20日で日程が合えば1回はシューフィッターの先生を優先依頼し、内容は子供も含めた形で、もう1回は飛鳥井先生の夫婦の関係を含めた別の講座を行えたらいい。

3. 西砂産業祭りについて

- 石川：西砂産業祭りの名称ではなくて一番町を含めた西一産業祭りになり、地元の工業会の方々にも協力頂いて前座から変えてみたらと思う。増田委員からは農研会の方や地元の起業家の方にも協力頂いたらと話があった。実施の目的は地区農業の発展と地区の全体像を知る事を目的としたら良いと意見があり委員のご意見を頂きたい。
- 岩元：西砂町は農業が中心になるが一番町には精密機械の工場が多々ある。日本の産業を支えている立川工業会にも協力頂けたらと思う。
- 広瀬：玉川上水の一番町の向こう側には良い会社が多くあり協力頂けたらと思う。一番町にも協力頂くなら名称を西一産業祭りにしないとまずいと思う。
- 岩元：自治会も同様だが括りが学校も線引きしたら活動を行い易い。一番組とは組めているが難しい所があると思う。
- 大橋：西砂小学区や松中小学区等の意味合いになるか。
- 岩元：一番町二丁目や四丁目の向こう側が区分けされてなくて分かりづらいので、自治会が両方にまたがっているので困っていると思う。
- 森：もし名称を変えるのであれば西一産業祭りが良いと思う。エリアの考え方が必要なのは主催側で、エリア外の人に言う訳ではないので主催側が考えている事を公にしなければ問題になる事ではないと思う。
- 大橋：西一産業祭りで主催するこちら側がエリアを限定する形を確認出来れば良いと思う。
- 森：お金の問題もあると思う。産業祭りを開催するとなると設営の問題やボランティアで参加して戴くことになるが、現状でお金を寄付してまでの参加等について課題もあると思います。
- 大橋：学習館で行うとなれば機材の搬入等2日間全館を使える日程は押さえられるか。
- 石川：早めに日程を決めれば可能。
- 大橋：出店に賛同して貰える様に目的をしっかりと固めて働きかけしていかなくてははいけないし文化の祭りはあるが、地域産業の祭りはないので起こせれば良いのではと思う。地域の人たちと腹を割って話が出来るといいと思うし糸口が見えてくる。
- 増田：農業の問題は本当に大事な問題であり、立川市の長期総合計画の中にも記述がある。市内の産直販売所を見ても立川産の物は少ない。学校給食では10数%しか使用していない。26市の中で立川市が一番農業は自立していると思っている。新しい事を始める時には市民の意見を聞くべきと思うし、市民が食べたい時に立川産の物を食べることが大事なことと思う。今農業をしている人達と話をしてみれば良いと思う。
- 加藤：市内の農業問題で一番大きい事は販売先がないことと、学校給食で立川産を使用しない事である。立川産の物を売る場所をいっぱい作ってほしいと思う。
- 森：一番大事と思っていることは地域の絆を高めることと思う。西砂学習館まつりも自分達の活動を知ってもらい、学習館に来てもらえるきっかけになれば良い。産業祭りも同様と思う。西砂を知る事によって長く愛してくれて、子ども世代にも受け継

がれてみんなが西砂を自分のふるさととして誇れる気持ちになって貰いたいことが産業祭りの目的と思うので、我々の熱い気持ちを上手に伝えられたらと思う。

4. 西砂学習館地域運営協議会地域情報発信

石川：目を引くためには良いネーミングが必要。「みんなで作ろう住み良い街」や「いきいき元気通信」等がるが他にはどうでしょうか。

大橋：西砂エリアの方言を使ったネーミングはどうか。学習館を小さく書いて「行くだんべえ」や「学習館へやーべー」（一緒に行こうの意味）や「こっちこうば」（こっちへくればの意味）「はいらっしゅー」（お入りなさいの意味）等の言葉が入ったら面白いと思う。

森：学習館や運営協議会の名称を出さないとするが。

大橋：「西砂学習館だより」等のネーミング自体は避けた方がいいと広瀬委員が話してくれた。発行元は分からないと怪しい文書になってしまうので、発行元の明記は必要。学習館の役割を考えると地域の文化伝統を知ってもらって繋げる事と思う。情報を伝えることは大切な事。便りで隅々まで伝わればと思うので学習館で広報誌を発行したい。

石川：地元の情報を伝える事は良い事。裏側で家庭菜園を行っているが、収穫時期を教え農家が収穫した物を買って帰る企画を行えばと思う。

5. 西武立川駅の掲示板ウェブサイト「みんなの西砂川」のホームページからQRコードを使い西砂地区の情報取得について

石川：「西砂一番へようこそ」はありきたりのキャッチコピーなので、他に考えて頂きたい。

岩元：新しい生活を始めた皆さんとなっているので「ようこそ」が良いと思う。

大橋：新しい住民が増えたが情報が届いてなく自治会にも入っていない中で地域の情報が上手く手に入らない状況を知ってもらう為に掲示板があった方が良いのではと思うし、エリアの情報だけを知って貰いたい訳ではなく、西砂学習館が出しているので運営協議会にも目が行くし、エリアの情報からさらに西砂学習館に向いてくれると様子が分かると思う。そうなれば沢山の情報が得られる流れを作ることが出来る。

広瀬：西武立川駅の掲示板は効果があると思う。

大橋：今年度中に学校コーディネーターや青少健、地運協の委員とぎつくばらんに話が出来たらと思っている。考えを委員から聞いてみたいので、次回の9月に委員からのアイデアを聞かせて頂きたい。

3. 報告及び連絡事項

(1) 前回の議事内容の確認（議事録）

大橋：何かあれば事務局へ。

(2) フリースペースについて (報告)

小林：今はストップしている。

(3) サマーイベントで使用できなかった食材について (協議)

- ・青空パントリー (8/22 開催予定) への寄付について

石川：昨年の残った物で賞味期限が切れそうな食材を多く抱えている。缶詰や乾麺等は出来れば 8 月 22 日に開催予定の青空パントリーで有効活用をして頂きたい。委員に了解を得てからと思い協議にあげた。

大橋：寄付して大丈夫です。

小笠原：8 月 22 日に一番子ども食堂で地域からの寄付を活かした形で食材の提供を行うことが可能になった。8 月の開催は今まで一番子ども食堂に来て下さった方のみに案内を出して、10 組の家族と社会福祉協議会の紹介で追加は 2 組の計 12 組が参加予定です。さらに石川係長が西砂産直会に声を掛けて頂き定期的に野菜の提供をして貰える事になった。食堂の再開は 9 月からを考えていたが立川市から提供不可との事で、月 1 回の青空パントリーを継続しようと考えている。

(4) 各委員からの報告及び連絡事項について

加藤：市民推進委員会の講座も 6 月までは全て中止にしたが、今はコロナ禍の中それなりに申込出来ている。一番の大きなポイントは定員で市から部屋の定員の 1/2 制限があり 40 名募集するには 80 名以上利用が出来る部屋になる。40 名定員の教室は 20 名定員になり先生・スタッフ合わせると 15 名程度しか募集が出来ない。その中でいかに広い部屋を取れるかが悩みとなっている。

広瀬：初めてシルバー大学に入学する事になった。一番福祉会館では初めてボイストレーニングの開催が決まり月 2 回参加予定になっている。

大橋：シルバー大学で学んだ事を還元出来て循環型の社会を立川市は目指していると思うので地域に還元して貰えたらと思う。

進藤：「アール・ブリュット立川 2020」チラシ参照。毎年立川市で開催している。9 月 16 日から 9 月 21 日は勢丹立川店で開催。高松学習館や立川タクロスでも予定。お時間がある方は見学して頂けたらと思います。もう 1 つは「ママエールプロジェクトたちかわ」チラシ参照。支援金を募り、市内の技能を持っているママ達が集まり新しく立ち上がった団体。市内のプレママや乳幼児を抱えたママを支援するプロジェクト。まちなつとの 10 月号にも掲載を考えている。物資の無料提供をする中で、検討段階ではあるが洋服のお下がりの寄付も募り乳幼児を育てるママに繋げていく仕組みが出来たらと思っている。始まった時にはチラシをお願い出来たらと思う。

新型コロナウイルス対策地域支援寄付金の活用では近隣ですと明日、砂川学習館

近く平和ひろばの裏手の畑を借りてキッチンカーが来て、子ども達に唐揚げを無料提供する予定。コロナ禍で頑張った子ども達を「コロナに負けないぞ！プロジェクト」で元気付けられたらと思う。

小笠原：児童館も明日で1日保育が終わる。どの児童館からもコロナのクラスターが出ず、夏休みを終えられそう。子ども達にストレスがかかってしまったが健康面は守れてホッとしている。

居場所作りは9月の開催予定。学校や家庭にアプローチをかけて、誰かと話をする機会を児童館が提供していることを子ども達に知ってもらい、自己肯定感を育み次に進んで貰えたらと思う。

長谷川：青少健は松明祭りが中止になった。9月2日～4日は中学生の主張作文を西砂会館にて実施予定で、大会の開催日は11月3日を予定している。新成人を祝う会は2部制で行う予定ですがコロナで状況が変わって来るかも知れない。新成人には大変な年になってしまったと感じている。

岩元：文化会は10月31日と11月1日に文化祭の予定だが、今月27日、28日に文化会の3役会で開催を決定したいと思う。恐らく展示のみで、演芸は中止となるかと思う。参加しているコーラス槐では7月と8月は何とか活動を行ったが9月は中止となった。10月は再開出来たらと思う。保護司会は研修会を含め12月までは全て中止となったが、唯一10月12日から14日に市役所でパネル展のみ行う予定。

小林：コロナウイルスの為一日殆ど外出しない生活が増えたと感じる。フリースペースと子ども食堂が早く再開出来たらと思う。

森：西砂パソコン倶楽部はようやく7月から講座の活動を再開。沢山の人が参加してくれ嬉しかった。定員が半分に制限されているので、当日の急な参加希望者に対応出来ないで、事前予約を依頼している。高齢の参加者が多く、レッスンをされた時には楽しまれている。これからもコロナに負けずに頑張っていきたいと思う。9月初めに加藤委員に協力頂いているパソコン講座はテキストの最終確認と印刷をする所。

増田：たちかわ・財政を考える会では、8月23日の日曜日に3回目の学習会をAIMで開く予定。加藤委員とインタビューし第3弾の白書に掲載して頂いた立川市商工会議所中小企業相談所所長の柴田さんにお話を頂く。コロナで人数制限等があると思うがお陰様で前向きな議論が出来ている。

石川：視聴覚室内の機材室内を整理しかなり広くなったので椅子等が出しやすくなると思う。明日ポールと土台が届く予定で、OPPフィルムと合わせて飛沫防止用フィルムとしてコーラス用に常設したいと考えている。

※次回開催；次回は、9月24日（木）午後6時～ 西砂学習館